

島根県看護協会

出雲支部会員数 2102名

ひだまり



vol.63

2019年9月発行
島根県出雲市下古志町1574-4
島根県立こころの医療センター
TEL (0853) 30-0556 FAX (0853) 30-2000
発行責任者 和田 祐子

令和元年度

出雲支部総会開催



令和元年度島根県看護協会出雲支部総会が、6月15日(土)パルメイト出雲4階において開催されました。総会の開催にあたり島根県看護協会専務理事徳若光代様、島根県看護連盟監事飯野泰子様より挨拶と看護協会及び看護連盟の活動についてお話していただきました。議事としては、平成30年度の事業報告及び決算報告、令和元年度の事業計画及び予算報告を行いました。役員会の開催、研修会や交流会の開催、まちの保健室事業などの支部活動を写真で提示しながら報告させて頂きました。

また、前年度役員6名の退任を代表して郷原支部長、続いて和田新支部長をはじめ新役員6名の挨拶も行いました。



退任した役員の方



お世話になりました。
今後とも看護協会活動にご協力宜しくお願いします。



今年度より新役員の方



会員の皆様
どうぞよろしくお願い致します。



前役員あいさつ

支部長を終えて

出雲市立総合医療センター 郷原 佳子

2年前に支部長を拝命し、平成から令和へと元号が変わる時代の節目となる年に今日を迎えることができ感慨深いところがあります。

さて、地域包括ケアが推進され、これまで以上に看護職への期待が大きくなり、支部活動にも大きな役割や活躍が求められてきました。任期中に一番大きく変わったのは、まちの保健室事業です。平成15年からスタートした「ほかほかまちの保健室」は、温泉利用の方をターゲットに北山温泉でスタートし、いちじく温泉へ場所を移し、温泉スタッフの協力を得て定期的に行う常設型として定着していました。しかし、近年徐々に利用者の減少、ボランティア会員の減少が顕著になってきました。見直す時期に来たと考え、昨年の5月を最後に常設型は休止し、出雲市役所(行政)の保健師さんに10月・11月を中心に地域で行われているコミセン祭りの共催をご提案頂き、昨年は3か所のコミセンに出かけました。地域に出かけることでより多くの住民の方とふれあえ、やりがいにつながりました。常設型には常設型の利点がありますが時代にあった見直しを行い、イベント型中心で行うこととしました。血圧測定・体脂肪測定をしながら生活習慣病や血圧、運動等の相談や指導を行いとても喜ばれました。行政との連携で地域への貢献度も上がったように思いました。今後も時代にあった変化をしながら、長くこの事業が続いていくことを希望します。ご支援、ご協力ありがとうございました。

書記を終えて

出雲市立総合医療センター 長廻喜美子

パソコンの苦手な私が書記という大役を受けることになり不安だらけでしたが、支部長を初め役員の皆さまの協力を頂いて、任期を無事終えることが出来ました。

文書の発送や宛名のラベル作りなど、事務作業に迫られた2年間でしたが、いろんな施設の方との出会いやまちの保健室事業への参加は楽しくもあり勉強にもなりました。このような活動に参加できたのも、職場の協力があってこそと感謝の思いでいっぱいです。



新役員あいさつ

支部長

島根県立こころの医療センター 和田 祐子

この度、支部長の任命を受けました。不慣れな点は多々あるかと思いますが、皆さまのご協力を得ながら頑張りたいと思います。

出雲支部発祥の「まちの保健室」事業が諸先輩方の看護力で脈々と受け継がれ、今、時代の流れと共に、より幅広い世代、多様なニーズに応えられるよう、これまでよりさらに地域の中に入って行く形に進化してきていることに驚かされています。「看護の力で健康な社会を！」ナイチンゲール生誕200年の2020年に向けて全国でキャンペーンが広がっています。出雲の地でも会員の皆様と共に、活動をつないでいければと思っていますので、よろしくお願いいたします。

書記

島根県立こころの医療センター 石飛 早苗

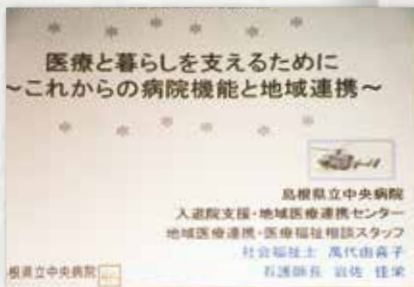
この度、令和元年度の出雲支部の書記を務めさせて頂くことになりました。初めてのことで私にこのような大役が務まるのだろうかという不安な気持ちで一杯ですが、役員の皆さまにご指導、ご協力を頂きながら役割を果たし、出雲支部の活動がより良いものとなるよう頑張っていきたいと思っています。

また、他施設や地域の方々との交流を大切にしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

支部活動のご案内

第36回「看護活動交流会」

日時 令和元年10月12日(土)
 場所 島根県立こころの医療センター
 テーマ 出雲市で自然災害が起こったら
 ～看護職としての役割と
 心がまえを学ぶ～



昨年の研修会の様子

まちの保健室

平成15年からスタートした「ほかほかまちの保健室」は昨年度、常設型からイベント型へリニューアルしました。出雲圏域健康長寿しまね推進会議の主催イベントへの参加、また出雲市の保健師とともにコミュニティセンターへ出向き、地域の文化祭活動への参加等、イベント型まちの保健室事業を主体としていく事となりました。地域に出かけることで、多くの住民の方と触れ合い、やりがいにつながることができました。

時代のニーズに合わせてながら地域の方の健康増進を目指して、我々の活動が貢献できるように取り組んでいきたいと考えております。



昨年度のまちの保健室の様子



令和元年6月9日 県立大学出雲キャンパス学園祭

看護 研修会

演題 「魅力的な話し方」

講師 竹内 駒英氏 フリーアナウンサー



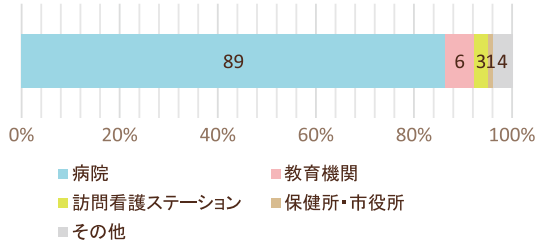
フリーアナウンサーの竹内駒英氏より、過去の実体験を交えながらご講義頂きました。

話し方によって相手に伝わる印象の違いや魅力的に伝えるコツを学びました。沈黙を怖がらずに間をとることや、姿勢・視線を含めて相手にどのように伝わるか意識することが大事であると学びました。参加者の4割以上が経験年数20年以上の看護職であり、人前で話す際のコツや心構えについて学べたことは参加者のキャリア上のニーズに合っていたと思われ良い研修となりました。

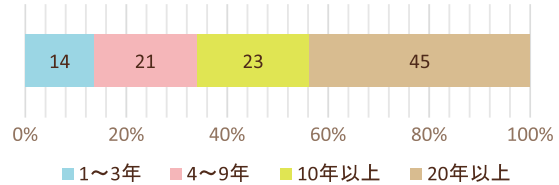


研修アンケート結果

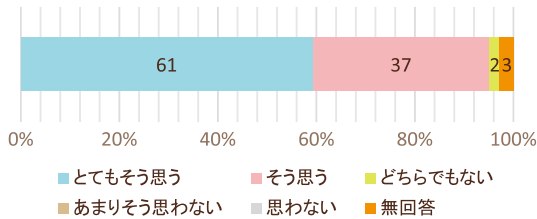
1) 所属



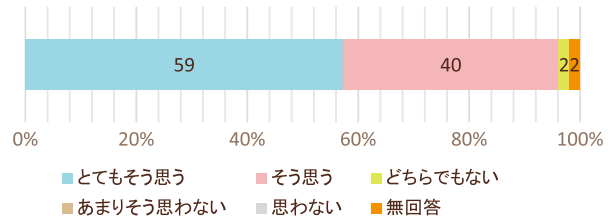
2) 経験年数



3) 満足できる内容だったか



4) 今後に生かせるか



参加者感想

- ◆まずは聞き手として話し手が話しやすい相槌を打つことを実践したいと思います。
- ◆患者さんと話す時の自分の態度を見直す必要があると思いました。
- ◆言葉のひげをやめて、間を入れることや聞き手を巻き込むことを意識してやってみたいと思います。
- ◆方言で言葉を濁していたこともあり、言葉・話し方の大切さを知りました。滑舌の練習を日々していこうと思います。
- ◆自分の話しているときの印象など考えたことがなかったので、感じのいい人を心掛けながら患者さんやスタッフなどとコミュニケーションを心掛けていきたいと思いました。
- ◆講演の時間が長かった。

アンケートより抜粋

研修会感想

島根大学医学部附属病院 陰山美保子

竹内駒英氏の「魅力的な話し方」の講演を拝聴しました。可愛らしく、明るく元気な駒ちゃんにドキドキでした。人前で話すことは苦手意識があり、講演は興味深い内容でした。見た目、表情・姿勢・態度など非言語的コミュニケーションも大事。「声は人なり」自分の人間性が表われる。自分の話す癖を考える機会となりました。沈黙を恐れず、間を味方にして語る。失敗しても「リカバリー力」を養いめげずに働こうと勇気をもらいました。

出雲市民リハビリテーション病院 福島 彩子

研修会に参加し楽しく「話し方」について学ぶ事が出来た。自分の話す姿を知っているかの問いに、大変おどろいた。考えた事もなかったからだ。今後はもう少し自身の話す姿を意識し、患者さんだけでなく、会う人に少しでも好印象を持ってもらえる様、努力しなくてはと痛感した研修だった。

島根大学医学部 看護学科 福岡 理英

「魅力的な話し方」は看護職としても、人としてもマスターしておきたいことだったので、研修会をととても楽しみにしていました。

人に与える印象（感じのイイ人とは）や発語（発声・滑舌・スピード）、話し方のテクニック、聴き方についてまで、具体的に分かりやすく話していただきました。アナウンス界の話も含め、とても興味深い内容でした。

この研修で学んだことを、関わりの中で活かしていこうと思います。

編集後記

日頃より支部活動にご協力いただきありがとうございます。広報ひだまりの担当者も新メンバーとなりました。皆様に支部活動がより分りやすく、身近に感じて頂けるように活動して参りますのでよろしくお願い致します。出雲支部へのご意見・ご質問等ありましたらお気兼ねなく事務局までご連絡下さい。

担当：中山まゆみ 錦織洋子 原 麻里